

**【小さくても弱くても尊く用いられます！】**

聖書：サムエル記第一17章41-50節/暗唱聖句：ルカの福音書16章10節

説教者：鄭南哲牧師
(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズ教会の信仰の家族みなさん！一週間もお元気でしたか。私の足りなさや感染により、みなさんに色々心配をおかけしましたことや教会のスケジュールに色々変更させてしまったことを改めてお詫び申し上げます！同時にみなさんのお祈りに支えられて、無事療養期間を終え、年の為、確認の抗原検査で確実に無事陰性が出たことを確認したうえで、このように復帰出来ましたこと心から感謝致します。コロナ感染率は大分落ち着いている中ではありますが、最近小牧では学校内での感染が広がっているようなので、みな引き続き気をつけましょう。特に、本日敬老感謝礼拝として捧げますが、これからも教会家族みんな、特にお年寄りの方々の健康のために、切にお祈り申し上げます。

<1. 自分が小さく感じてしまう時がある>

みなさんはいつ、どんな時に御自身がとても小さく感じられますか。もっと大きく、高く、大胆に進みたいと思いつつも、時には自分が小さいと思うと、なかなかものごとに自身を持たず、気が小さく、肝玉(きもだま)が小さく、劣等感に捕らわれたり、あらゆる行動に萎縮(いしゆく)してしまったりする時があります。

実に、人は自分より大きなものに直面する時、自分の限界や無気力を感じると、そう感じられてしまうのではないかと思います。自分ではどうしようもないゴリヤテのような大きな壁にぶつかってしまった時、自分一人の力では到底(とうてい)解決出来ないような大きな問題にかかえてしまったり、高いハードルを感じてしまう時に、自分があんまりにも小さすぎるのではないかと考え込んでしまうでしょう。みなさんも人生の中でそのような経験を何度もされたのかも知れませんが、今までのみなさんの人生の道のりの中そのような場合にはどう反応されたでしょうか。

もし、これからそのような状況を今年もまた直面したら、みなさんはどう反応すると思われますか。

神様が最も小さい者一人通して、どう用いて、打ち勝つように用いて下さったのか聖書のあの有名なダビデとゴリヤテの話をもってともに学んで見たいと思います。

<2. あなた一人が大切です！>

今日の本文は旧約聖書の中第一サムエル記17章は多くの方々がよくご存知の戦争内容の話です。ペリシテ人とイスラエル人との戦争ですが、ペリシテの巨人ゴリヤテという代表的な戦士と少年ダビデの勝負が今日のメインの話です。17章4節によると、ゴリヤテの背は6キュビト半(1キュビト=444.5mm)で267cm、かぶとまでかぶると約3m以上であり、彼が着たよろいの重さだけで5千シケル(57kg;約60kgほど)ほど、一般の人から見てもデカイ巨人の戦士でした。彼に立ち向かったダビデはまだ少年であり、羊飼いであり、小さいものでした。まだ戦争に出た経験もなく、当然戦った経験も一切ないものでした。

常識的にも、客観的にも、統計学的にも、奇跡的な信じられない話しですが、しかし、みなさんもよくご存知の結論から言うと、まだ小さい紅顔(こうがん)の美少年だったダビデがゴリヤテを倒し、打ち勝ち、イスラエルが救われ、大きな勝利を収めることが出来たでしょう。

結局、ダビデ一人の勝利がイスラエル全体を勝利に導き、引き上げることが出来たわけであります！

ここで大事に教えられる事は、世の考えと違って多くの人たちより、神の側に立ち、神様の為に、献身した少数、あるいは一人が大切であることが分かります。

サムエル第一17章8-9節をみると、イスラエルの陣営の全軍隊はペリシテ人の巨人ゴリヤテという一人のため恐れています。これは、古代の戦うやり方でもありましたが、ゴリヤテはイスラエルの軍隊に向かって僕と戦おうとする者一人もいなか。臆病の者たち、怖がりのやつらだと無視する言い方をしながら、一人を選んで自分と戦わせるようにして見ると、侮辱かけ脅(おびや)かし続けていました。

ゴリヤテが負けると、ペリシテ全軍隊がイスラエルの奴隷となり、逆にイスラエル軍隊の人々から出た人が負けると、イスラエルの軍隊がペリシテの奴隷とならなければならない劣勢な状況におわれていました。しかし、目の前に立っている巨大な壁のような巨人ゴリヤテの前に誰一人神の為に、全イスラエルのために進んで命をかけて戦おうとする勇士はいない状況でした。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！ここで注目すべき単語(たんご)は「ひとり(8節)」です。

ひとりと全ペリシテ軍隊と民と関連されています。ひとりと全イスラエル軍隊が繋がられています。ひとりにすべてがかかっています。ゴリヤテ一人の提案を聞いているイスラエルのサウル王とイスラエル軍隊全体が恐れています。(本文11節)
今イスラエルが非常に恐れ震えている理由は、ゴリヤテに対して立ち向かえる、一人の存在がいなかったからです！
ひとりが必要です！ひとりが大切です！ひとりの存在を軽んじてはいけません！教会も、キリストの信じる信仰の共同体にもひとりの大切さを忘れてはいけません！

その時神様が立たせ用いて下さったひとはだれでしたか。彼の名前はまだ小さな少年ダビデでした！

ちょうど、父親のお使いで羊飼いだった少年ダビデは、兵士として出ている兄貴たちに食べ物を渡しに行っただけで、ダビデはまったく戦争や戦いの経験がなく、そこに出られるほどの歳や身長でも至らない、戦える力もない小さな者すぎないダビデを神は選んで用いて下さったわけであります！そして、ついに勝利を治めて下さいました！

ここで、一先ず、我らが忘れてはいけないのは、その大切なひとは、歳や力、能力、経験ではないことが分かります！

あんな小さな少年ひとりでも神の御手の中で大いに用いられるとすれば、お年寄りの方々でも、まだ若い人でも、どんなに弱くても、足りなくても、小さくても主に尊く用いられることを忘れないで頂きたいと願います。ですから、今日もここに座っていらっしゃるクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族、小さな子どもからお年寄りの方々に至るまで、お一人お一人を大切に支えていきたいと願っております。

<3. それでは、神様はどうして多くの人々の中ダビデを選んで用いて下さったのでしょうか。>

聖書ではダビデに対し小さいものであることを強調しています。ダビデはエッサイという人の八人の息子の末っ子で、まだ少年で小さ過ぎたので、まだ戦争にも出られないくらいほど、年齢も、体もまだ小さかったわけであります。なので、当然今まで、戦争などの経験もない羊飼いに過ぎない者でした。

神様が選んで下さった、用いて下さった人は、我らの考えと期待と違って、戦争の経験が多い力持ちの勇士でもなく、戦いに知恵を多く持っている戦略家でもありません。多くの人の考えと期待と違って、神様は、小さなダビデを選んで用いて下さって、結局ダビデの小さい石で巨人ゴリヤテを倒し、ゴリヤテ一人が倒れることにより、イスラエル全体が勝利をおさめることになりました。

①人は足りなくても信頼してくれば、人は全ての力を発揮することができます。

ダビデがゴリヤテと戦うことができたという自体が奇跡ではないでしょうか。巨人ゴリヤテの前でみんなが震え恐れている場にダビデが現われます。そしてダビデは正義の怒りを表します。‘いったいゴリヤテがどんな者で、生きておられる神の御名汚し、その軍隊に侮辱をかけるのか’と正義の怒りをいだいて自分がゴリヤテと戦うと申し出ています。

サウル王はダビデの話聞いて彼を呼びます。サウル王の反応は当然始め否定的でした。

サムエル記第一17章33節、「サウルはダビデに言った。「おまえは、あのペリシテ人のところへ行って、あれと戦うことはできない。おまえはまだ若いし、あれは若いときから戦士だったのだから。」

しかし、ダビデはサウル王を説得します。彼が今までどうやって父の羊を守ったかを。そして、神様が今まで自分をどうやって助けてくださったのかを。その内容が第一サムエル17章34-37節の内容です。

ダビデの話聞いていたサウル王は彼にゴリヤテと戦うチャンスを与えます。これは大変大きい冒険に間違いありません。戦争の経験がまったくなかった幼(おさな)い少年にイスラエルを体表するメイン選手として、サウル王は一応彼を信頼し、戦える機会を与えます。ここで、みなさん、我々が学ぶべき人間関係において人から信頼を得られる大切な原則が見られます。それは信頼の原則です。

人は足りなくても自分を信頼してくれる人の期待に応えようとして、必死に行動し、努力します。小さい者でもだれかが自分を信じ、励ましてくれば大きい力を発揮するようになります。事実ダビデを信頼して下さった方はサウル王の以前神様です。そしてサムエル預言者もいました。

ダビデは神様に選ばれサムエルを通して油注がれます。その日以来、ダビデに神様の霊が強く働かれたと聖書は言っています。しかし、ダビデの家のほかの兄弟たちもダビデを無視しました。しかし神様とサムエル預言者、そして今日サウル王まで彼を信頼してくれました。

<人に信頼を得られる4つの要素: 品性・体験・成果・動機>

ここでみなさん！ダビデのどんな姿がサウル王まで信頼を得られるようにさせたのでしょうか。

「7つの習慣」ベストセラー作家であるスティーブン・R.コウィーは人に信頼を得るのに4つが必要な要素があると指摘します。

つまり、人の‘品性・経験・成果・動機’です。

ダビデはまだ少年でしたが、この4つを部分全部満たしていたので、サウル王が信頼してくれたとも言えると思います。まず、ダビデの品性を見てください。彼は謙遜でありながら、父の羊一匹を守るために命をかけました。彼は誠実でした。誠実ほど信頼を得る品性もないでしょう。

そして、彼は戦争の経験は一切なかったのですが、たくさんの戦った体験と成果を残しました。

第一サムエル17章34-36節を見ると、ダビデが獅子や熊を倒して自分が飼っていた羊たちを守るほどだったのであれば、ゴリヤテを倒すことなんて不可能なはずはないことをサウル王も判断されたのではないかと思います。どんなにいい品性を持っていても、それだけでもすべてを信頼されるということはたやすくはないと思います。ささいなことでも続いて積み重ねて来た経験(日々の積み重ねる経験が重要:礼拝、祈り会、牧場、学びなど)と成果が伴う時に人のことばに信頼が得られます。ダビデは敵と戦って殺す戦争の経験はまったくありませんでしたが、命をかけて熊と獅子と戦いながら何度も羊を救い、守って来たその成果があったので、少年でありながらも信頼を得ることが出来ました。

彼は羊飼いでした。父の羊を守るために彼は石を投げることを何度も何度も繰り返し練習して慣れて来たのではないのでしょうか。ですから、みなさん、わずかな技術でも繰り返し慣れさせれば卓越した自分のものとなり、それが実力まで至るように、小さな事でも繰り返し、続けることに力があります。

何の隙間が見えなさそうだった、ゴリヤテでしたが、ダビデの目には獅子と熊に向かって戦うように、すぐさま隙間をみつけます。それはゴリヤテの額(ひたい)でした。なれていたからすぐ分かります。すぐ見つけました。繰り返し続けてやって来たからです。いきなりでは突然でもありませんでした。ですから少なくともこの小石を投げることだけはだれに負けない繰り返し続けた経験による実力を持ち、成果を出して来たと言っても間違いないでしょう。その信頼を結果、戦いに出て見事にゴリヤテを倒す勝利を得られたのではないのでしょうか。

ですから、愛するみなさん！みなさんの日常の生活や小さな事でもつづけてやっている事を無視しないでください。普段みなさんの生活で繰り返されていることをけっしてないがしろに考えないでください。些細に見えていてもそれを誠実に繰り返し、続ける時それが実力となり、自分の力量になって神様にその部分において尊く用いられるチャンスと成果につながれると信じます。些細なことを軽んじてはいけません。

そして、ダビデが信頼を得られたのは他の人々が持ってない彼の「動機」があったからことが分かります。ダビデは父が預けた羊のためにいのちをかけました。彼は今ゴリヤテとの戦いも神様の御名のために戦おうとしました。

神の御名の栄光のために、イスラエルの民のために、彼は戦おうとしました(本文45節)

愛する信仰の家族のみなさん！いくら経験が豊かであり、いくら実力があるとしても、神は神が喜ばれる動機を持った人を多く用いて下さいました。そして、人も実力も大事にしますが、この動機をよく大事に見て、信頼を与えます。

どんな動機ですか、どんな意図(いと)ですかととっても大切です。神様もダビデの表を見ずに、その中心を見られたと言われました。ダビデは‘献身’的な人でした。彼は神のために、他の人々を守るために、自分の命をかけた人はダビデしかいませんでした！ダビデだけがそれが可能な献身的な人でした！サウル王が少年ダビデを信頼することができたのは、自分や他の軍人にはなかった、ダビデのその献身的な姿があったから、心かたいサウル王の心さえも動かされ、信頼を得られたでしょう。なぜなら、だれもゴリヤテと戦うとしない状況なのに、いのちをかけて献身を見せたのがただ一人ダビデだけだったからです。それがダビデと他の人たちの一番の違うところだったのではないのでしょうか。もしかするとサウル王はダビデの犠牲をとおして気を落としているイスラエルの軍事たちに刺激を与えようとした隠れた悪い意図もあったかもしれませんが。

しかし、人々からではなく、神に信頼され、選ばれ、用いられた理由は、そこにあったものではありません！

②神は人の表や見た目より、心(神の前で謙遜な者)を尊く用いて下される

第一サムエル記16章7節に「主はサムエルに言われた。「彼の容貌(ようぼう)や、背の高さを見てはならない。

わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。」

神様は歳、力、才能、能力、財産、権力、社会的な立場でもなく、神様が大切に選び、用いる基準は、人の心、内面を見るという意味です！神様に用いられた人々は、様々な人生の苦難、試練、訓練を通して、その人が持っている信仰、内側の品性、人格を整え、訓練してから、その人を用いて下さる内容をよく見えています。

人の心、内面はすぐには表されませんが、よく観察すればわかります。神様は大切に用いられる人々にまず内側の訓練

をされるのよく聖書は教えて下さっています。そして、それから主の働きをさせます。

人はいつも自分に損得を計算して図ります。自分に益となるか、損になりそうなのかよく自己中心的に考え計算します。

しかし、**損得より、ダビデは神の前で何か正しいことなのか、間違いなのか、神が喜ばれることなら、神のために、あるいは、他の人を助けるために惜しみなく犠牲を払おうとする人でした。**イスラエル民は、みんな前者出会った時に、ダビデだけは、神の方に立ち、神様のために、そしてイスラエルの民の為に、自分の命までも惜しまず、投げようとしてしました。見た目的には、他の大人の軍人たちと比べて、自分の小さな力、小さな体、少ない経験でしたが、**イスラエル軍隊の中でだれより、神が信じる民と共におられ、今までもそうされたようにこれからも共におられ、必ず戦って下さって、打ち勝つようにして下される神様であられる信仰の確信**が強くあったので、自分の命までも惜しまない勇敢な者になったのではないのでしょうか。

神様に用いられるためには、歳や若さ、力、能力、知識や知恵などでは決してありません。

自分が小さな者であることを認め、弱い、力のない者であることを素直に認める人ことと、神の助けがあれば、神と共におられると必ず打ち勝ると信じる信仰の確信を合わせてまとめると、私がそれが「謙遜」だと言えます。

聖書で、神は何よりも謙遜な者を高く上げ用いられたことが分かります！なぜ謙遜でしょうか。神の御子イエスキリストが持つておられる体表的な内面、品性、心そのものが謙遜だったからであります！

ピリピ人への手紙 2章5-9節は、イエス様の生涯を圧縮した箇所です。この御言葉に隠されている一番大切なイエス様の品性が謙遜と従順でした。

「キリスト・イエスのうちにあるこの思いを、あなたがたの間でも抱きなさい。6キリストは、神の御姿であられる方なのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、7ご自分を空しくして、仕えるの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、8自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。9それゆえ神は、その方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。(ピリピ人への手紙2章5-9節)」

イエス様の内面の姿において一番美しい品性が謙遜だと言えます。イエス様はみずから謙遜な方だと言われました。

「わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎを得ます。(マタイの福音書11章29節)」

聖書で見ると、神は自分が強い者だと、大きい者だと、大した者だと思ふ人を決して用いられません。神様の御前でいつも自分の弱さと小さい者だと思ひ、いつも神に頼り、神の助けを求める謙遜な人たちを選んで用いられます。

当時イスラエルの王はサウルという王でした。彼はイスラエルの初の王様でありました。聖書によると、彼は背が高かったのですが、神の前で自分が小さい者だと思ひ謙遜な時に初のイスラエルの王として選ばれました。しかし、彼が王になってから高慢になり、自分の力で何でも出来そうな者かのように振る舞いをやり始めた時に、彼は神様の御言葉に従わず、もう一局神派サウル王それ以上用いられず、彼は見捨てられてしまいました。サウル王が神様に逆らった時、当時神の預言者だったサムエルが彼に言った言葉を聞いて見て下さい。

第一サムエル15章17節です。「サムエルは言った。「あなたは、自分の目には小さい者であっても、イスラエルの諸部族のかしらではありませんか。主があなたに油をそそぎ、イスラエルの王とされたのです。」

神様が高慢になったサウル王を王位から退けながら次の王として選んだ人がダビデでした。

聖書はそのダビデがエッセイの8人の子の中“末っ子”だったことを強調します(第一サムエル17:14)。預言者サムエルがサウルの代わりに王になる人を選んで油を注ぐためにエッセイの家に行きます。その時みんなは当然格好もよく、十分資格があるだろうと思った長男エリアブが選ばれると思ひ込んでましたが、神様は格好よく、勇士であるエッセイの息子らをお選びになりません。その時、サムエルがエッセイにまだ息子がいるのかと聞きます。すると父エッセイは末っ子が残っていますが、人間的に考えた時にまだ子どもで、体も小さなダビデは王様としては、人が見てる基準としては、決して条件や資格がないかと思っていたので、呼ぶことすらしなかつたわけですが、神様はこの小さい者ダビデを選ばれ、油を注ぐようにと命じられます。(第一サムエル16章11-13節)。

なぜなら、神様は、ダビデが全能なる神の前で自分はいつも小さい者であると謙遜な人であることをご存知だったからです。ダビデはまだ少年でしたが、だれより彼の信仰と心は神の前で謙遜さを保っていた人です。神の前でいつも謙遜だった羊飼いだビデが王になった時も、彼は神様の恵みを賛美し感謝していました。すべての勝利が神様にあることを告白し、忘れませんでした。

愛する信仰の家族のみなさん! どうして神様は謙遜に小さい者を通して大勝利をさせようとされるのでしょうか。そうすることにより神ご自身の栄光をあらわすためであります。みんながその神を礼拝し、賛美と感謝を捧げられるようになるためであります。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みなさん、自分の存在が小さくて、自分の力が弱くて、自分は年寄りだから、自分は持っているものがあまり少なく、自分の能力がないという劣等感にとらわれないように気をつけてください。大きい者のような人と比べないようにしてください。むしろ自分の弱さ、小ささを謙遜に変え、神様を頼り、神様の助けをもつと求めるチャンスとして用いる人こそ、神様の御前で、神様の助けによって大事に、大きく用いられる者になると信じます。神様は謙遜な人に恵みを施してくださいと約束されました。

「しかし、神はさらに豊かな恵みを与えてくださる」と。それで、こう言われています。「神は、高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与える。(ヤコブの手紙4章6節)」

神様の目からは謙遜な人を高くあげてくださいます。「ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだいなさい。神が、ちょうど良いときに、あなたがたを高くしてくださるためです。(第一ペテロの手紙5章6節)」

神の前でいつも謙遜に自分の限界と弱さを認め、神の御力に頼り、従おうとする者こそ、神の全能なる御手の中で用いられて自分の前にある壁を打ち壊し、勝利することが出来る事を後下半期の今年中覚えましょう。

<結論: 神の御力と助けにゆえに勝利し続けるダビデの戦い>

しかし愛するみなさん! ダビデがどんなに良い品性と動機をもって、実力と成果出して来た人であっても、神様の助けがなかったなら、決してこのような勝利をおさめるという勝利の結果をもたらすことができなかったことを聖書は教えて下さっています。

少年ダビデがどれだけ石を投げるのにすばやく、力があつたとしても人の額に打ち込まれるほどはけっしてできないことでしょう。しかし、ダビデが投げた石がゴリヤテの額に打ち込まれたと聖書は言っています。彼が投げた石が飛ぶ時神様の超自然的御力を増してくださってたった一度で人の額に打ち込まれるようになったということを私たちは忘れてはいけません。ダビデは一人で戦争場に出たのではありません。ダビデの後ろに、背景には神様がともにおられたことを覚えなければなりません。

自分の力に限界があり、力が足りない人でも、神様の御力を頂ければ、強くなれます。尊く用いられます。ダビデは神様の力をこのように賛美しています。「まことに、主のほかだれが神であろうか。私たちの神を除いて、だれが岩であろうか。この神こそ、私に力を帯びさせて私の道を完全にされる。(詩篇18篇31-32節)」

メッセージをまとめます。

愛するクリスチャンプレイズの信仰の家族のみなさん! もう先週中にも、私たちも数多くの戦いの中で生きているのではありませんか。霊的戦い、自分の中の戦い、仕事や様々な問題と課題とも戦い、人との戦い、病との戦い、金銭的な戦いなど激しい戦いの時が多くあります。時には想定出来る戦いの時は大丈夫ですが、まるでゴリヤテのようにデカイ壁のような戦いがある時、我々をしきりに無気力にさせ、自己憐憫に陥らせる時もたくさんあるかも知れませんが、そんな時、我々はどうすべきでしょうか。

いつも謙遜に自分の力に神様の力をまし加えなければなりません。人生の歩みは、神とともに、神の力をたよりに進むべきです! 自分のわずかな力に神様の力を増せば、我々が恐れることはありません。勝てないことはありません! 乗り越えないことはありません!

今日ダビデのように謙遜に神様の御力の手をつかみましょう。すべての戦いは神の全能なる御力の御手にあります。

我らも小さな者たちです。弱い者たちです。多くの限界のある人たちです。でも大丈夫です!

すべては小さいことから始まります。今日神様は我らのように小さな一人ひとり、わずかな力でも、謙遜に神に頼り、神の力を求めるすべての人と共におられ、必ず助け勝利に導かれます。

これからも主にあってわずかな力でも一緒にあわせ、互いを信頼し合い、これからも神の栄光を現す存在として共に進みましょう。神の御力を共に頂き、残りの2022年下半期中にも勝利を体験し、積み重ねて行く信仰のダビデのようなクリスチャンプレイズチャーチの家族となるよう主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン!